

恐れながら願ひ上げ奉ります～「膳所藩郡方日記」を読む～

「膳所藩郡方日記」とは？

「10月14日、大江村の十助という者から子供が増えたので家を建てたいという願ひ出があった。」「2月23日、龍門村の三太郎という者の家から出火した。」-どこか新聞記事を思わせる書きぶり。さて、これは瓦版でしょうか？いえいえ、そうではありません。実は「膳所藩郡方日記」と呼ばれるお役人の公用日誌です。

膳所藩の職制のなかで、庶民を直接治めていたのは郡奉行と称されるところでした。訴訟や年貢収納などを担当する郡奉行のもとで、農村全般を取り扱っていたのが地方役です。さらにその下に領内の農村で農業を営みながら、藩からの命令や法令を各村の庄屋に伝えたり、各村からの上申事項を取り次ぐ大庄屋的な役割の郷代官がいました。

日記には郷代官が取り次いだ藩からの命令、また農民からの願ひ事などが詳しく書かれています。これは郡奉行と地方役が月番交代だったため、引継ぎの意味も込めて、後日いつでも調べられるように記録として地方役が書いたと思われる。

膳所藩、また人々の暮らしぶりを解明するうえで、この日記を含む「膳所藩史料」はまさに一級の史料と言えるでしょう。それがこの滋賀県立図書館に所蔵されているのです。

それでは少し「膳所藩郡方日記」を覗いてみましょう。（2面に続く）



り心はたすべくしてはよす

INDEX

- ・(特集) 恐れながら願ひ上げ奉ります・・・・・・・・・・ 1～3面
- ・湖国の本棚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3面
- ・郷土資料紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4面

図書館の催し

水資料展「日本 水のある風景」
 8月9日(水) 午前11時と午後3時の2回
 開催中 8月31(木)まで 2階 参考資料室にて
夏休み文化ゾーン子ども探検隊
 8月4日(金) 参加者の募集は終了しました。
夏休み子ども工作会
 地下1階 大会議室にて 各回72名
 児童室で各回1時間前から整理券配布

おはなし会
 9月20日(水) 午前11時と午後3時の2回
 1階 談話室にて
 8月のおはなし会はお休みです。
同和問題啓発資料展
 9月1日(金)～24日(日)
 2階 参考資料室にて

蛭真っ盛りでございます

[延享元年] 四月廿七日

- 一 黒津村蛭盛り、四月廿八日より晦日迄之内最中と相見江申候由、片岡権八より注進

(訳) 黒津村の蛭が見頃です。4月28日から30日までが真っ盛りと思われ、と片岡権八から知らせがありました。

「膳所藩郡方日記」には蛭に関する記述が散見されます。時期はおよそ旧暦の4月20日頃から5月10日頃となっています。これは今の暦では6月上旬から中旬に当たります。

黒津村は現在の天津市黒津です。『近江輿地志略』によりますと、黒津村の「堂堂」という項目に「我家君蛭を見給ふ亭也。」とあります。膳所藩主がここで蛭を鑑賞していたようです。

藩主が楽しんだ蛭狩り、きっと庶民も同様に楽しんだことでしょう。

雨よ降れ!

[文化三年] 六月九日

- 一 当所六ヶ村、今日より西庄村龍王宮へ宮籠り致度旨、相願聞濟申渡

(訳) 当地の6ヶ所の村が、今日から西庄村の八大龍王社(岩坐神社)へ雨乞いのため宮籠りをしたいという願いがありました。が、それについて許可をしました。

この年は、田植えの後の水が必要な時期にあまり雨が降らなかったようです。多くの村から雨乞いの願いが何度も出ています。雨乞い祈願は宮籠りをしたり、太鼓や鐘を用意して踊ったりしていました。雨が降るとお礼の踊りもありました。

農民にとってこの時期に雨が降らないことは死活問題です。この年は免れたようですが、歴史上何度も干ばつがあり、飢饉につながっています。日記にも雨乞い祈願についてたびたび書かれています。

親不孝者を叱る

[文化九年] 四月廿五日

- 一 (前略) 九蔵与申者、当申式拾三才ニ罷成候者甚心得方不宜、困窮之母并祖母

ニ日々被養居喰ニいたし居り候付、(中略) 招呼利解申聞手鎖をも可申付之処、段々相詫已来心躰相改、(中略) 此度八差免し(中略) 此度八歸村申付ル
(訳)(前略) 九蔵という者は、今年23歳になるが、心得がよくなり、困窮する母と祖母に毎日養われているので、(中略) 呼び出して手鎖をしようとしたが、次第に詫びて改心してきたので、(中略) 今回は免じて、(中略) 村に帰した。

江戸時代にあつては、親不孝も処罰の対象です。不孝者の九蔵に対して、郡奉行が手鎖の刑を言い渡すことになりました。

手鎖とは鉄で作られた手枷のことで、鍵で開閉し、そこに封印を捺した紙を結びつけました。この刑は庶民に対してだけ行われ、三十日手鎖、五十日手鎖、百日手鎖がありました。

さて何とか心を改めた九蔵、その後どうだったのでしょうか?



(膳所城図)

皆で助け合い

[文化九年] 六月十五日

乍恐御願奉申上候口上書

- 一 (前略) 弥助与申者、身上不如意ニ相成、(中略) 此度町内組頭并親類共世話仕、(中略) 六月廿日より晴天七日之間、舞子狂言興行仕、此助力を以爲取続申度奉存候(後略)

(訳) 恐れながらお願い申し上げる口上書です。(前略) 弥助という者が、生計が困難となったので、(中略) 今回町内組頭と親類が世話役となって、(中略) 6月20日から晴れた日の7日間、舞子狂言の興行をして、売上金で弥助が生活できるようにしたいと思っています。(後略)

これは庄屋から郡奉行に出された口上書です。弥助と親類と組頭から庄屋に興行の願い出

があり、それを庄屋が郡奉行に届けています。

この時代親戚や町内に生活に困った者がいると、何らかの方法でお金を得て助けていたようです。このような記述がほかにも日記に見られます。芝居のほか、相撲の興行も行っていました。

興行がうまくいったのか、お金が足りなかったのか、25日にあと1日延ばしてほしいという口上書が出て、許可されています。

まだまだあります

いかがでしたか？この他にも面白い記事が多く日記に載っています。涙を誘う女性泥棒の供述調書や人の結婚を邪魔する者など、ドラマさながらです。

「膳所藩郡方日記」の一部は 翻刻されています(『膳所藩郡方日記』膳所藩史料を読む会編 滋賀県立図書館刊)。ぜひ皆さんも一度お手にとってご覧ください。

翻刻...写本などを活版化して刊行すること。

「膳所藩史料を読む会」について

「膳所藩史料を読む会」は昭和 62 年に結成されました。現在は「膳所藩郡方日記」の解説・翻刻を中心に活動をされています。

この魅力について、長年この会をリードしてきた福尾彰夫さんは、「『郡方日記』には当時の農民の事情が詳しく描かれ、それが手に取るように分かります。人々の生き生きとした姿が魅力です」と語っています。

いま県立図書館のデジタル・アーカイブで見られる「膳所藩郡方日記」は、この「膳所藩史料を読む会」の皆さんの活動の成果物です。ぜひ一度アクセスしてください。

<http://archive.shiga-pref-library.jp/list.cfm>

湖 国 の 本 棚



そうだ！
元気をもらいに、
山の阿闍梨さまに
会いに行こう。

あきた
梶田ミカ著 PHP 研究所

2006.5

今年、伝教大師最澄が比叡山に天台宗を開いて 1200 年になります。比叡山は古くから天台僧の修行場としても知られ、千日間歩き続け途中 9 日間堂入りして断食・断水・断眠・不臥して念誦修法する「千日回峰行」は有名です。

著者は京都在住のヘアメイク・アーティストで、この行を成し遂げた上原行照大阿闍梨に出会って話を聞くうちに、生きるうえで大切なことに気付き始めます。大阿闍梨の心温まる言葉を織り交ぜながら、著者の心境が生き生きと描かれており、著者からも「元気」がもらえる 1 冊です。

地域情報コーナーを新設しました！

参考資料室入り口が、お持ち帰り自由のパンフレット類を集めた「地域情報コーナー」として生まれ変わりました。

福祉、生涯学習、ビジネス情報、またイベント案内まで県内の最新情報を取り揃えていますので、滋賀県の動きが一目瞭然。

ぜひとも皆さんの暮らしにお役立てください！



Book まーく

「ナマズの知恵袋」をご活用ください！

いま参考資料室では「ナマズの知恵袋」を年 4 回発行しています。

そもそもなぜ「ナマズ」なのか？ - 江戸時代、鯰が大地を支えているという考え方がありました。そこで鯰が動くと地震が起きるのですが、一方それを予知するとも信じられていました。

私たちは地震こそ起こしませんが、皆さんの「支え」になりたいと考えています。その際「ナマズの知恵袋」が「予知」ならぬ「お手伝い」になればと思います。

鯰はどことなくユーモラスで親しみが持てます。「ナマズの知恵袋」が皆さんに愛され、そして調べ物をする際の「道しるべ」となることを、またそれをとおして「調べる楽しさ」を知ってもらえればと願っています。(上)

http://www.shiga-pref-library.jp/d_namazu/cm_namazu.cfm

FLASH ふらっシュ

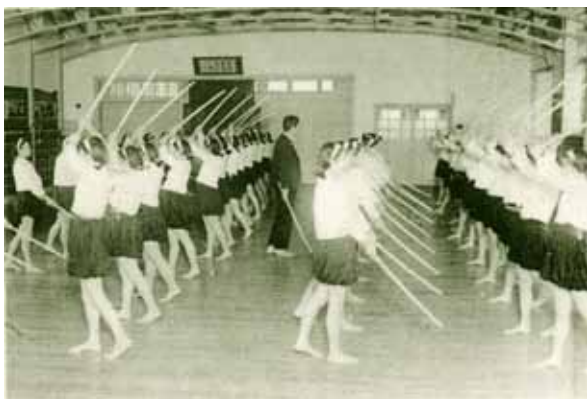
ガーデンテラスへようこそ



県立図書館では、この春から1階ロビー前の中庭をガーデンテラスとして開放しています。6月には、ライブラリーコンサートも開催しました。

あなたも心地よい風に吹かれながら、のんびりと読書してみませんか。

今月のデジタルアルバム帖



8月「第二次世界大戦前後の滋賀県 2」

戦後 60 年が経過し、戦時中の貴重な資料の散逸が危ぶまれています。8 月のデジタルアルバム帖では、7 月に引き続き当館所蔵資料をはじめ、各方面からご提供いただいた資料から、当時の様子的一部分を紹介します。

県立近代美術館 7 / 8 ~ 9 / 18 開催

『イサム・ノグチ展』協賛資料展

日時：9/1(金)~18(月・祝)

場所：一般資料室展示コーナー

現代アートといえば、「よく分からない、理解できない。」と敬遠される方も多いのでは？「感じたまま」を大切にすればよいとも言われますが、芸術家の生い立ちや思想、また時代背景などを調べてみると、作品にこめられた深い思いを理解する手がかりになります。県立図書館では、「言葉」からイサム・ノグチにアプローチしようと関連資料を展示します。空間そのものをアートとしたイサム・ノグチの試みは、時代の先駆者としていまなお大きな影響を与えつづけています

美術館に行く前に予習するもよし、作品に触れた後で復習するもよし。本をとおして「ミケランジェロの再来」ともいわれたイサム・ノグチの世界に近づいてみませんか？



9月 「甲賀の名産 1」(仮題)

明治5年(1872年)明治政府はウィーンで開催される万国博覧会に参加するにあたり、全国の物産調査を行いました。これをまとめたのが「滋賀県管下近江国六郡物産図説」です。9月は同書から、土山の製茶、水口のかんぴょうなどを紹介する予定です。

<http://archive.shiga-pref-library.jp/>

郷土資料紹介

民誌・縵の歴史と文化

縵の歴史と文化編集委員会編

栗東市縵自治会 2006年

弥生の大型建物とその展開

広瀬和雄、伊庭功編 サンライズ出版

2006年

氏郷記を読む会研究レポート集

氏郷記を読む会研究レポート編集委員会編

氏郷記を読む会 2006年

民部様御賄御用日記

井伊直幸・青春時代の日々の暮らし [延享
三年正月～六月]

彦根古文書同好会編刊 2006年

現代語訳信長公記 上・下 新訂版

太田午一著 中川太古訳 新人物往来社

2006年

幕末維新の個性 6 井伊直弼

母利美和著 吉川弘文館 2006年

大津の保育

「大津の保育」編集委員会編 大津市

2006年

近江の民具

滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から

長谷川嘉和著 サンライズ出版 2006年

琵琶湖淀川流域の将来を考えるフォーラム記

録集 瀬田川南郷洗堰100周年記念誌

滋賀県琵琶湖環境部水政課 滋賀県 2006年

日本の建築と庭 西澤文隆実測図集

西澤文隆 [作図] 西澤文隆実測図集刊行会

編 中央公論美術出版 2006年

平成18年5月～6月購入・寄贈分

大津絵の世界

ユーモアと風刺のキャラクター

大津市歴史博物館編刊 2006年

里山のことば

今森光彦著 世界文化社 2006年

U t s u f i l t e r

眞野丘秋著 新風舎 2006年

長農ポート百年史

長農ポート百年史刊行事業実行委員会、

長農ポート百年史編集委員会編

長農ポート百年史刊行事業実行委員会

2006年

冬菫 対中いずみ句集

対中いずみ著 ふらんす堂 2006年

湖都物語 湖の都に暮らして

加藤昭著 鶴巻企画 2006年

ありがとうボクはしあわせ

ホームホスピスの現場から

祐森弘子著 編集工房ノア 2006年